

地域全員参加で走るクローバーバス ～新しい公共交通の姿を求めて～

NPO法人 中越防災フロンティア
横井武志

平成 16 年 10 月 23 日に発生した中越地震により壊滅的被害を受けた新潟県旧山古志村(平成 17 年 4 月 1 日より長岡市に合併)。道路は崩壊し全世帯が離村、同時に村を走る路線バスは休止となり、7 割の世帯が帰村したものの隣接する長岡市太田地区も含めて廃止路線となった。

地震から 3 年以上が経過した平成 20 年 7 月以降、地域の 97%を超える世帯が会員となった NPO 法人中越防災フロンティアが運営するクローバーバスが走っている。

■ みんなで支える仕組み ～全世帯 NPO 会員～

クローバーバス設立・運営にあたり、最初に目指したのは地域の全員参加である。全国の中山間地域同様、やはり山古志・太田の生活は自動車移動が中心である。路線バス廃止に際し、「地域には公共交通が絶対必要」と誰もが思ったが、「でも自分は使わない」というのが実情である。運行計画においても同様であり、強い要望がある路線・時間に本当に人が乗るかは別である。ただでさえ人口が低密度で分散した中山間地のバスでは正確な需要を把握することは難しく、地域の声は必須である。利用者である地域住民の当事者意識がなければ、運営がバス事業者であろうと行政であろうと、上手くいくことはない。

また、地震を経験し、それでも地域への思いが強く帰ってきた当該地域の人たちには、バスは地域全体・全員の問題であること、車に乗れる人もこの問題を共有することへの理解は得られやすいと考えたことも理由のひとつである。

クローバーバスは、地域の全員参加・地域の運営という目標を掲げてスタートし、全世帯の 97% が NPO 会員(年会費 5000 円)となった。これは、もちろん運営費の一部として大切な資金となっているが、「バスが必要だ」という地域の強い思いを形として見せており地域外の人や行政などからの支援にもつながっている。

また運行開始後のアンケートでは、「バス廃止の問題を地域全体の問題」「バスは乗らないけど地域のため」「自家用車を運転できなくなる将来の自分のため」とバスを使わない人もこの仕組みに対して高い評価をしている。



路線バスからクローバーバスへの乗換

■ クローバーバスの運営体制 ～地域の人材活用～

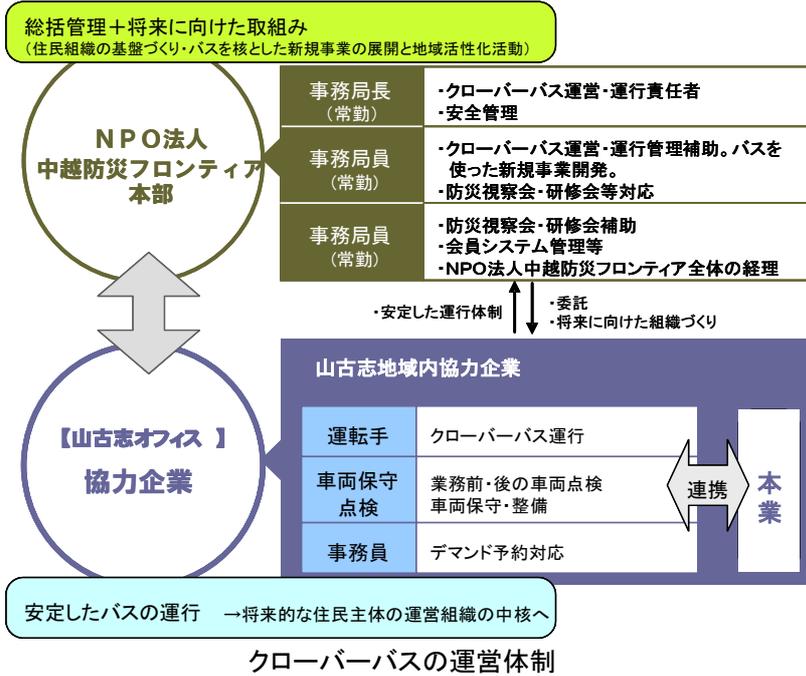
NPO 法人中越防災フロンティアは、バスを運営するためにつくられた組織ではない。バス廃止という緊急事態に、中越地震からの復興を目的とする既存組織としてクローバーバス運行の先導的な役割を担うこととしたが、将来も「地域の足」を継続的に確保するためには、地域住民自らが運営・運行していくことが必要だと考えており、最大5年を目処に地域住民主体の組織へと運営・運行を移管する予定である。

地域住民主体の運営組織の基盤づくりという役割もある現在のクローバーバスは、外部への運行委託を極力少なくし、安全性・安定性を確保しながら原則地域内の力の活用・運転手の地域内雇用を進めている。運行は山古志内の企業が中心となって担い、NPO法人中越防災フロンティアは安全管理、バスを使った新規事業の開発、会員の管理など総括管理をおこなう組織体制になっている。

バスの需要は朝夕に集中するが、その時間帯にあわせた体制を組むと人員は過剰になってしまう。クローバーバス運行に関しては、新規雇用は地域内を原則とし、かつ協力企業の本業(自動車修理業・清掃業等)と運転業務を兼業で行うため、少人数でも柔軟な運行体制を可能としている。

また、自動車整備・点検、従前からの大型車や幼稚園バス運行、冬期の除雪・道の確保といった各社の本来業務がクローバーバス運行においても活かされている。

クローバーバスが運行している4路線については、かつてはバス事業者の他に村営バスもあったため数値的に正確な比較はできないが、行政補助はかつての約6割程度まで縮減されている。



■好調な利用実績とバスに対する意識の変化

クローバーバスは運行開始から約100日が経過した平成20年10月9日に乗車1万人を突破した。学生の夏休み期間を挟んでいることを踏まえれば、運行前の予想を大きく上回る乗客数であった。運行初期には、予想外の利用者で乗り切れない事態が発生することもあった。

クローバーバスにNPOの会員という形で参画したことは、地域住民のバスに対する関係性に変化をおよぼした。「バスを使おう」という意識につながり、利用者数は前年同月比1.3~2.2倍で推移している。運賃は無料のため経営的にメリットはないが、アンケート調査による公共交通に対する満足度は大幅に改善している。バスに乗らない人もNPO会費を負担している、にも関わらずである。

これは、公共交通のサービスレベルももちろん大切だが、むしろ「路線存続のために汗をかき」、「負担とサービスレベルの関係を知り」、「運行計画について声を出せる」という参画していることの重要性を示しているのではないかと考えている。

■なぜ「クローバー」なのか ~クローバーバスの4つの由来~

- 幸せを運ぶといわれる4つ葉のクローバー。クローバーバスで人と幸せを運びたい。
- みんなで支え合う仕組みの4つの主体「地域住民」「地域外の協力・交流」「行政機関」「NPO法人中越防災フロンティア」をクローバーの4枚の葉に見立てている。
- 運行エリアを山古志・太田地区を運行する4枚の「葉」と、葉と長岡中心を結ぶ「茎」でクローバーに見立てている。
- 中越(Chuetsu)の復興(Revitalization)を愛(LOVE)で結ぶとクローバー(CLOVER)が現れる。

※山古志・太田地区のバス「クローバーバス」ブログ <http://bus.c-bosai-frontier.jp/>